

ハーモニー



第27号

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話：22-2212 FAX：22-3910 E-MAIL：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

chapter 1 下田市と男女懇話会の活動が目指すもの

平成24年度がスタートし、市と男女懇話会は、これまでの具体的な実例や活動の中での経験から、今取り組むべき課題を見つめ直し、これからの活動について話し合いました。市民の皆さまと共に手を取りあい、話し合い、活動を一步一步進めていきたいと思ひます。

下田市が男女共同参画社会を実現するために

1 子育て支援を考える

- ・家庭でも仕事(社会)でもいきいきと生きる女性のための支援
- ・男性が家庭と仕事を充実できる職場環境の改善支援



できることからやりましょう

ファミリーサポートセンター
活動の支援



2 政策や方針の決定の場への女性の参画拡大を考える

- ・地域の女性リーダーの育成
- ・自治会、PTA等や自主防災組織への働きかけ



できることからやりましょう

行政を通じて働きかけを行うと共に、地域での女性の活動支援



3 高齢者・生活困難者(家庭)の支援を考える

- ・ひとり親家庭への支援(自立へ向けて)
- ・育児放棄家庭、ひきこもりの子を持つ家庭支援
- ・高齢者とのふれあい支援



できることからやりましょう

地域を結びつけるきめ細かな活動
話を聞く、相談にのる
☆地域で活動する組織と
連携をしましょう

地域力の向上

◎啓発活動としての“ハーモニー”の役割！

1 子育て支援を考える

あるお母さんの声

普段、父親は朝から夜遅くまで仕事ですので子どもと父親が顔を合わせることがほとんどなく、たまにお父さんの顔を見ると泣き出してしまいます。



子育て中の親にとって、子育て支援は母親支援だけでなく父親の職場の環境支援でもあり、また地域の支え合い支援でもあります。

今年から始まった「ファミリーサポートセンター」の活動もそのひとつです。豊かな子育てを支援し男性も女性も仕事と育児をいきいきと続けられる社会を目指す活動を考えていきたいと思います。

2 政策や方針の決定の場への女性の参画拡大を考える



P T Aの活動の中で

母親の立場で、P T A活動を眺めるとお母さんたちはとてもいきいきと活動しています。でも、会長や副会長に積極的になろうという女性は少ないですね。

審議会等への女性登用状況は、前号でお知らせしたとおり、下田市は決して高くありません。市や民間の企業での女性管理職の登用も決して高くありません。政策や方針の決定の場への女性の参画拡大のためには、行政の意識的な取り組みと共に、地域に根ざした女性の積極的な活動が、これまで以上に求められているということでしょう。

地域でのきめ細かい女性の活動を支援し、育てていく地道な活動がこれから求められることと思います。

3 高齢者・困難を抱える家庭への支援を考える

いきいきサロンの参加者の声

ここで習った「黒船音頭」を黒船祭で、皆と踊って楽しかったです。家で1人していると寂しいですが、皆でワイワイ言いながらカレーなんか作って食べると、「来て良かった！」と思います。



高齢者が人とふれあいながら、いきいきと楽しく生活することができるように、下田市女性の会は月1回「いきいきサロン」を福祉会館で行っています。

1人ぼっちのお年寄りを作らない、集う楽しさを生きる楽しさにと、様々な内容で行っています。こうした高齢者支援と同時に、1人親家庭や子どもへの悩みを抱える家庭への身近なふれあいを心がけ、活動していくことも「男女が共に社会の中で大切にされる社会」として大事なことだと考えます。

皆で知恵を出し合い、ふれあいを築く社会を考えていきたいと思います。

chapter 2 ファミリーサポートセンターがスタートして3か月！

4月にファミリーサポートセンター（通称：ファミサポ）がスタートしてから、3か月が経過しました。今回は、実際にファミサポを利用された【おねがい会員】【まかせて会員】双方の方々の感想を紹介します。ぜひ、ファミサポをご利用してみたい方はいかがですか？

おねがい会員

育児を応援してほしい方

【良い感想】

- ☆まかせて会員の方が親切で良かった。
（まかせて会員の方が、預けている間の様子を詳しく教えてくれたので、子どもの様子が手に取る様に分かって良かった）
- ☆保育所の休園の日に、仕事に出なければならなかったのが助かった。
- ☆職場の近くの人に預かってもらえて助かった。
- ☆まかせて会員のお宅にも同年代の子がいたので、一緒に遊んでもらって楽しそうだった。
- ☆何と言っても自分の時間が持てるのが嬉しい。

【ここを改善してほしい・・・】

- ★年代の近い人にも預けることができれば・・・
- ★お金がかかるのが・・・



まかせて会員

育児を応援したい方

【良い感想】

- ☆子どもが可愛くてこちらまで癒された。
（声を出してよく笑うので、こちらまで楽しくなった）
- ☆主人も子どもが好きなので楽しく過ごす事ができた。
- ☆同じ子を2回預かった時に、短期間でも子どもの成長を感じる事ができて嬉しかった。
- ☆孫も大きくなり、小さい子がいなくなっていたので懐かしい気持ちになれた。
- ☆とてもいい子で問題なく預かる事ができて良かった。
- ☆人見知りもなく、楽しく遊んでくれて良かった。

【ここを改善してほしい・・・】

- ★あまり長時間（丸1日）だとちょっと心配。
（人の子を預かるのは神経を使う）
- ★時間が長い時は、着替えを一組持たせて欲しい。
- ★食事だけでなく、水分・おやつ等も持参した方が良いのでは（好みもあるので）
- ★おむつ・おしり拭きの持参をお願いしたい。
（親のモラルの問題andこちらの説明不足か）

ファミリーサポートセンター



活動のシステム

- 1 おねがい会員がセンターへ援助を申し込む。
- 2 センターはまかせて会員の中から会員を紹介する。
- 3 おねがい会員とまかせて会員の事前打ち合わせ。(援助の内容・時間・方法など)
- 4 話し合い成立後、まかせて会員による育児援助。
- 5 子育てサポートの終了後に報酬(利用料金)の授受。

*会員は入会と同時に「会員傷害保険」「賠償責任保険」「子ども傷害保険」に加入(個人が任意)しますので安心です。

登録方法 下田市ファミリーサポートセンターまで
必要なもの ・写真2枚 おねがい会員…保護者の写真
 ・写真2枚 まかせて会員…ご本人の写真
 ・印鑑 ・保険証(おねがい会員のみ)

利用料金 (1時間)

基本時間 月～金曜の午前7時～午後7時 600円
 土・日・祝日、基本時間外(平日) 700円

問合せ先 下田市ファミリーサポートセンター
 〒415-0024

下田市四丁目6-16 (学校教育課内)

TEL & FAX : 0558-27-2332

E-MAIL : kyouiku@city.shimodashizuoka.jp

開設時間 : 午前8時30分～午後5時15分

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」への御意見、御感想を募集しております。

下田市役所企画財政課企画調整業務担当まで御連絡ください。

電話:0558-22-2212 FAX:0558-22-3910 E-mail:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp



輝いています！

まるとうわさび 飯田智哉さん・雅子さん

今回紹介する「きらり輝いています」のコーナーは、須原で「里山遊び」を開催しているまるとうわさびの飯田さん夫妻です。毎月第4日曜日に自分たちが整備した里山で、子どもたちを遊ばせる活動をしています。

○ 雅子さんがこちらへ来たきっかけや里山遊びをやるようになったきっかけは？

10年前に夫と結婚したのを機にこちらに来ました。自然環境がよく日本の原風景があり、元々自分もそういう環境にあこがれていたため、自分のペースでやっていけそうだと思います。

月に1度の定期的な「里山遊び」を始めたのは今年からですが、2004年より季節のグリーンツーリズムのイベントとして、田植え、収穫祭、冬の山の整備と山遊びを行ってきました。いつも子どもから大人まで50人から60人集まり大盛況でした。そこで、特別なイベントとして行うのではなく、定期的にもっと自然に遊ぶ機会を持ちたいと思い「里山遊び」を始めました。



大人気のターザンロープ

○ 里山遊びなどイベントをするとき、ほかの人の応援は？

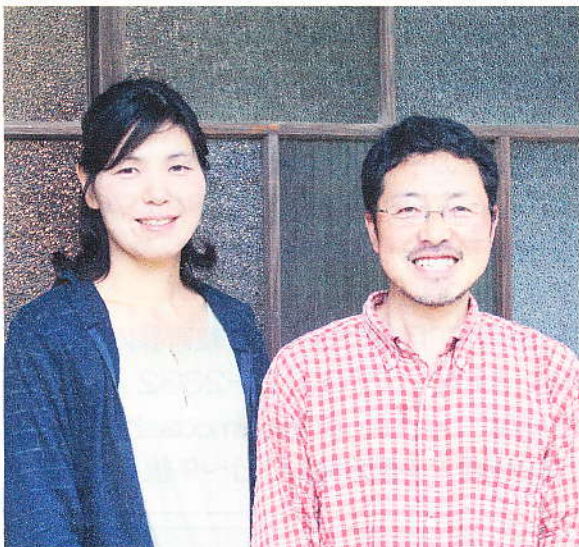
特にスタッフは決めず、参加する人で対応しています。組織化するとやりたい方向性が崩れる可能性もあり「自由にやる！」「負担なくやる！」ということが自分も夫も良いと考えています。自分たちのペースでそれに賛同する人が集まって、無理なくやるのが長い間続けていくためには、必要だと感じています。

○ ケガを自分持ちとしているが？

当然、大きなケガをしないようにしているのは大前提ですが、少しぐらいのケガは、ケガをして何かを学ぶ方が得であるという考えが根本にあります。昔、田舎では今みたいに保険だ何だとか言わなかったし、ケガは自分で責任を持たなければならないものでした。ケガも確かに心配ですが、子ども自身がそういう部分も含め自分で考え、遊ぶことの方が大事だと考えています。

○ ご主人の協力は？

2人とも比較的同じ考えを持っていて、似たもの同士だと感じます。元々、夫は「里山遊び」をする前から里山の環境やピオトープ等を整備してくれていました。また当初、対外的なこともやってくれており（夫は人とコミュニケーションをとるのが得意なので）、自分の足りない部分を補って来ていました。でも、最近では自分もいつの間にか積極的な人間になっていて、これは夫が引き出してくれたものなんだなあと感じています。夫婦似たもの同士お互いを育て合いながら、この「里山遊び」を行い、子どもも含め家族全員で楽しんでいるという感じかもしれません。



インタビュー終了後、お二人を玄関前で撮影させていただきました。お忙しい中、取材の対応をいただき、ありがとうございました。

○ 里山遊びを通じて伝えたいことは？

「里山遊び」を始めるきっかけの1つに、集落の子どもがうちの子しかいないので、何とか他の地区の子どもたち（年齢性別関係なく）と交流を持たせたいという思いもありました。自分の子どもに対しても同じことを思うのですが、自然環境が恵まれている中で、子どもの時しか体験できないことや子ども社会での人間関係を築くことなどを遊びの中で感じてもらいたいと考えています。そういう体験が、大人になり、困難にぶつかった時に、きっと自分の力になってくれると思います。

里山遊び開催しています！

日時 毎月第4日曜日 午前10時から
 場所 まるとうわさび（須原1523）裏「どんぐり山」
 ※夏季は川遊びを実施予定
 ルール 「ケガと弁当は自分持ち」が基本です。
 問合せ まるとうわさび TEL&FAX 0558-28-0777
 URL <http://www.marutou-wasabi.com>